

2021年度文化講演会が開かれました 困難重なる時期に、 落語で癒やされたひとときでした

伊東稔雄（広報部会）



三遊亭楽生さん

2月27日(土)、習志野市国際交流協会と習志野中央ロータリークラブの共催による2021年度文化講演会がプラッツ習志野市民ホールで開かれました。当日は春の到来を告げるような晴天となり、約100名の方々の参加がありました。今回は日本の伝統芸能の一つである「落語」をテーマとし、その中で国際交流の視点も盛り込まれました。講師は三遊亭楽生さんと三遊亭好青年さんのお2人です。

日向洋美文化交流部会長の進行で進められ、まず当協会吉村和就会長の挨拶がありました。コロナ渦の中、これだけ多くの皆様が来場してくださったことに対し感謝が述べられました。

さていよいよ落語のスタートです。真打の三遊亭楽生さんが自己紹介を含め、「将来、自分が笑点メンバーになったら…」など大変おもしろい話題で爆笑をとった後、小話「豆みそ」を披露してくださいました。

続いてスウェーデン出身の三遊亭好青年さんの登場です。日本人にとっては当たり前のことが自分にはとても不思議だったという内容を、特にサラリーマンの働く様子を例に話してくださいました。文化の違い、習慣の違いを感じました。その後、有名な古典「時そば」を披露していただきました。

次は、お2人によるトークコーナーです。落語家になられたきっかけや落語の世界の裏話(師匠との関係や後輩の育て方など)をおもしろおかしく話してくださいました。また、好青年さんが小話を日本語、英語、スウェーデン語の三か国語で披露してくださいました。楽生さんは、今般の国際情勢を鑑み、とにかく平和を願っているということを強調されていました。

そして、当日のトリは楽生さんによる人情噺「徂徠豆腐」です。江戸時代の儒学者、荻生徂徠と豆腐屋七兵衛の噺です。序盤は笑いもありましたが、徐々に館内が静まりかえり、クライマックスでは涙をぬぐう方も多く見られました。その後、お2

人には習志野市で有名なお店のお菓子がプレゼントされ、大きな拍手の中、講演会が終了しました。

何人かの来場者の方に感想を伺いました。

「とても面白かった。特に最後の噺が良かった。今の世の中に特に大切な内容であったように思う」

「好青年さんの努力が素晴らしい。ここまで来るのに長年かかったのだろう」

「楽生さんが素晴らしかった。特に最後の人情噺には引き込まれた」

「外国の人にも落語をわかってもらえてうれしい。もっと広まるといいと思う」

「落語を生で聞くのは初めて。やはりライブはいいと思った」

お2人にも話を伺うことができました。

「スウェーデンでは落語はほとんど知られていない。いつかスウェーデンでもやってみたい。」

「外国に行くと自国のことをよく聞かれる。自国のことを知らないことに気づき勉強した。自国の良さがよくわかった」

「人生すべて縁である。落語、師匠や仲間との縁、習志野市との縁(お2人の大師匠三遊亭圓生師匠は昭和54年9月3日、習志野市で公演後亡くなった)、その他すべて縁である」

現在、コロナの影響で仕事が非常に困難とのことでしたが、お2人のますますのご健勝とご活躍を心より祈念したいと思います。

講演会の終了後、出口に向かう方々の表情は、笑顔で柔らかなものでありました。また、満足感、充足感に満ちたものでした。コロナや国際情勢の緊迫などのニュースが続く中、短くはありましたが心が温くなる時間となったのではないのでしょうか。



三遊亭好青年さん



(左) 吉村会長
(中央) 日向文化交流部会長
(右) 講演会場



国際交流・協力等ネットワーク会議がオンラインで開かれました

井澤修美(事務局長)・晴山紗希(習志野市協働政策課)

1月21日(金)、千葉県と(公財)ちば国際コンベンションビューロー主催の「令和3年度国際交流・協力等ネットワーク会議」がオンラインで開催されました。

まず千葉県の国際課やちば国際コンベンションビューロー、国際協力機構JICAの事業説明があり、その後、「外国にルーツを持つ子供、若者の現状」というテーマで、ペルーから中学2年生の時に来日した上村寿安カルロスさんのミニセミナーがありました。

ミニセミナーの後、参加団体が4つの分科会に分かれて情報交換を行いました。

- (1)災害時の外国人支援について
- (2)外国人の教育・進学支援について
- (3)地域における外国人キーマンの発掘・育成について
- (4)SDGsと国際交流・多文化共生について

テーマ3「地域における外国人のキーマンの発掘・育成について」では、イベント時の外国人の集客方法やキーパーソンの発掘の仕方について意見交換を行いました。各団体とも、外国人のコミュニティを作りたいという方が多く参加していましたが、どこも苦労しているようでした。このグループには外国人ゲストとしてベトナム出身の方とベネズエラ出身の方が参加されていましたが、外国人といかに交流を持っていくかということについてお2人の話がとても参考になりました。まずイベント等が外国人の興味をひくものかどうかということ、そして「ボランティア参加証」など、参加したことによるプラスアルファがあると協力者は増えていくのではないかとのことでした。また、情報発信はSNSの活用が非常に有効で、ホームページよりもフェイスブック、文字だけではなく動画の投稿が効果的だそうです。

テーマ4「SDGsと国際交流・多文化共生について」では、各団体が受けた外国人からの相談を紹介し、SDGsのどのターゲットに該当するか協議しました。また、国際協力や地域活性化に尽力している「特定非営利活動法人 自然塾寺子屋」から、地域活動と外国人のかかわりについての事例やJICAの外国における取組みが紹介されました。SDGsへの取組みでは、普段の活動はおのずとターゲットに分類できるため特別意識する必要はありませんが、より活動の幅を広げるためには、身近な活動事例をSDGsの観点から見直す機会を設けることが非常に大切であること、また、現在のような対面交流が難しい状況下においても、オンラインを活用して国際交流が途切れないようにしていく努力が必要であることを再確認しました。

この会議は、行政や国際交流協会などが協力して、県内に住む外国人と日本人が安心してネットワークをつくることを

目的として開催しています。県内他団体の情報や事例を共有するとともに、これを機に新たな横のつながりもつくることのできたのではないかと思います。

タスカルーサ市桜まつりの「うちわ」を送っています



習志野市協働政策課

習志野市協働政策課は、毎年、タスカルーサ市において3月・4月に行われるタスカルーサ国際姉妹都市協会主催のイベント「桜まつり(Sakura Festival)」のために、ミニサイズのうちわ作成のお手伝いをしています。

うちわには、タスカルーサ国際姉妹都市協会とアラバマ大学において決定したテーマが日本語と英語で描かれます。テーマの書は、タスカルーサ国際姉妹都市協会から、千葉県茂原市出身の書道家である伊場(いば)英白(えいはく)先生にお願いし、毎年素敵な揮毫をいただいています。2022年のテーマは「育む」・「Nourish」です。習志野市の印刷業者にデザインを依頼し、タスカルーサ国際姉妹都市協会の担当と共に、カラーバリエーションやアートワーク等の校正を幾度も重ねながら作成します。

完成したうちわは国際便で発送し、桜まつりの他、タスカルーサ市姉妹都市通信(広報誌)へも掲載され、タスカルーサ市の人々に広く親しまれています。



うちわオモテ面



うちわウラ面

広報紙スクウェアが創刊号からご覧になれます

ホームページにアップされている「スクウェア」のバックナンバーは、これまでは一部、近年のものだけでしたが、このたび創刊号(1988年3月発行)からご覧になれるようになりました。ぜひご利用ください。



スクウェア創刊号

<発行>

習志野市国際交流協会
千葉県習志野市津田沼5-12-12
サンロード津田沼6F
〒275-0016
Tel&Fax 047-452-2650
<http://www.nia08.com/>
nia@jcom.zaq.ne.jp
詳しい記事がNIAホームページからご覧になれます

<広報から>

- ★ メールマガジンに読者登録をスクウェアの電子版「メール・スクウェア」を配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス niasquare@jcom.zaq.ne.jp まで。
- ★ 原稿をお寄せください イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局または niasquare@jcom.zaq.ne.jp へ。
- ★ スクウェア編集部員を募集しています 一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。